

令和7年度
シラバス

教科・科目	公民・公共	単位数	2
-------	-------	-----	---

学年・クラス	2 学年 （ 必修 ・ 選択 ）	担 当 者	森下 貴秋
使用教科書	教育図書 高等学校 公共		
使用副教材	帝国書院 池上彰 監修 ライブ！公共 2025 、 教育図書 高等学校 公共 ワークノート		

目 標

学習を通じて、現代社会の諸課題についての基本的な知識を身につけるとともに、課題の解決のために主体的に考え判断する能力を身に付けることを目指す。社会課題に対する見方・考え方はさまざまあり、多面的であることを重視し、その複数性の中で生徒が自分で考え対話を通じて、合意形成を目指す公共的存在としての能力を養うことに、特に重点を置く。

これを達成するために、さまざまな社会問題を身近な話題に引き付けて考えるテーマ学習を豊富に設定している。主体的・対話的な授業を通し、生徒が社会参画者であることの自覚を深めることを目標とする。

授業の内容・進め方

内 容：現代社会の諸課題について主体的に考え、判断できるよう、能動的な学習をします。

進め方：教科書と資料集を中心に展開します。興味を持ったことを深く調べたり自分自身の考えをまとめて発表することもあります。家庭学習での予習・復習が必要です。

考 査：授業で学習したことの理解度、思考力・判断力、資料活用の技術が試されます。

観 点：興味・関心をもって意欲的に授業参加しているか、内容をしっかり理解し自分のものになっているか、知識を活用した思考・判断で表現できているかを観ます。

評価規準（観点別達成目標・評価項目）

評価の観点	① 知識・技能	② 思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
観点別達成目標	自分自身が公共的空間の主体となり自分のキャリア形成とともによりよい社会の形成に結びつくことについて理解する。選択・判断の手がかりとして功利主義、義務論などの考え方について理解する。	地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的空間を作る存在であることにおいて多面的・多角的に考察し、表現すること。	よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めている。
評価の割合	1	1	1

	評価の観点	①知識・技能	②思考・判断・表現	③主体的に学習に取り組む態度
評価項目	定期考査（年4回）	◎	○	△
	小テスト（適宜実施）	◎	△	○
	レポート（適宜実施）	○	◎	◎
	課題提出（長期休み明け及び適宜実施）	○	△	◎
	授業への参加（通年）	△	○	◎

・ 観点別評価 3つの 観点別に各評価項目の達成率でA・B・Cを決定する。

A：十分満足できる

B：おおむね満足できる

C：努力を要する

・ 評価・評定 観点別評価から総合的に成績（評価・評定）を決定する。

年間指導計画及び中単元別評価基準

学 期	月	単元	学習内容	評価基準		
				知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に 取り組む態度
	4	人は1人では 生きられない	ドラえもんのマンガをてがかりに人との繋がりを考える	アーレントの複数性活動・公的領域などの概念を理解している。 アイデンティティの確立と、画一性による他者排除の相違について理解している。	公共的空間とはどのような空間か自分の体験や自身の体験や事例に基づき思考している。 自らの自我についてマズローやエリクソンの理論に基づき適切に表現している。	よりよい社会の実現を視野に現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、公共的空間に生きる人間としてのあり方生き方について自覚を深めている。
		人はどのように つながるか	アダム・スミス、リカード、マルクスなど経済学から「交換」による人と人のつながりについて学ぶ。	市場交換、資本主義の肯定的な側面と否定的な側面に注目させる。 否定的な面をどのように克服すべきか、国家が果たす役割などについて理解させる。 ソーシャルビジネスについては、企業のSDGsへの取り組みも関係させる。	交換により人と人がつながっていること、交換と贈与の違い、それぞれの利点と弱点について理解している。 古典経済学の労働価値説について理解している。 NPOなどの慈善団体とソーシャルビジネスの違いについて理解している。	自分の経験に基づき、交換と贈与について表現できる。 グローバル化した資本主義がもたらした功罪の両方について判断し表現している。
		自由と正義の 実現をめざして 対話から生まれる公共 日本の公共思想 日本の伝統思想 と外来思想 高校生が地域住民 と作る公共圏	ヘーゲル、アダム・スミス、ロールズの思想の基本を学びつつ、自由と正義についてどのような違いがあるかに注目する。とくに「弁証法」、「自由放任」、「格差原理」などの概念は、公共的空間を形成するうえで重要な知識として習得する	ヘーゲルの弁証法、アダム・スミスの自由放任、ロールズの格差原理などの概念を理解している。 自由と正義について国家、市場、人間の本性、歴史などさまざまな観点があることを理解している。	自分がどの思想家の理論に共感したか、その理由を表現している。 リベラリズムとリベタリアニズムの相違について説明できる。 弁証法を時事問題にあてはめ思考している	自由で公正な社会を実現に向けて主体的に思考している。
	5	功利主義と義務論 水俣病を考える 地球温暖化問題 誰が医療を支えるか	トロッコ問題を手がかりにベンサムの唱えた功利主義とカントの義務論を理解させる 温暖化の原因と取り組み、防止を考える。	功利主義と義務論の相違について理解している。 高度経済成長と公害の相違点について理解している 温暖化の原因と防止策を理解している。 日本の医療制度を理解している。	社会現象や政策判断を、功利主義、義務論の考え方をを用いて表現している。 多数派の利益と少数派の少数派の犠牲の問題点を思考し表現している。 日本のCO2削減の取り組みを思考している。	学習した内容を自らの倫理観、過去の行為に照らし合わせて思考している。 自立した主体として公害のような社会問題にどう向き合うべきかの自覚を深めている。 5年後、10年後の人口分布を想定し主体として医療に向き合っている。

	6	生徒会予算をどう分配するか	生徒会予算の分配を通じて公正公平を理解する。	自分にとって有益な選択肢を主張するだけでなく不利益を被る他者への配慮がある。	公共的な観点から表内の選択肢について自らの考えを表現している。	相手の意見を聞き複数の選択肢を横断し、最適な解を模索している。
		日本国憲法の3つの原理	国民主権・基本的的人権の尊重 平和主義の憲法の原理を学ぶ。	大日本帝国憲法と日本国憲法の相違点を理解している。 憲法改正の手続きを理解している。	立憲主義の意義について適切に表現できている。 憲法改正の意義について自ら表現している	巻末の日本国憲法の条文を読み、より理解を深めようとしている。
		大学入試と男女差別	大学入試における女性差別事件からその裏にある社会の構造を考える。	マフアーマティブ・アクションがなぜ必要とされるのか、またその課題点について理解している。	囲み内のA・B・Cの選択肢に基づき、自らの考えを表現している	大学入試における公正平等とは何か、当事者として思考しようとしている
	7	法と社会	社会が法やマナー・道徳のルールにより維持されていることを理解する。	法と道徳の相違点について理解している。 日本の法体系・分類対象を理解している。	法の限界を理解し、法の実効性を高める手段について思考している。	法について興味や関心を持ち巻末の法文にあたろうとしている。
		多様な契約	契約が法的根拠を持つこと、また契約を取り消すためのしくみについて理解する。	2022年から成年年齢が18歳に引き下げられたことで何が変わったか理解している。	なぜ成年年齢が20歳から18歳に引き下げられたのか思考している。 自らの体験に基づき表現している。	18歳成年について自らが近く持つ権利と責任について自覚を深め、契約と取り消しの手順を主体的に学ぼうとしている
	8	消費者の権利と責任	消費者が様々な権利によって守られている一方責任ある消費行動が求められていることを理解する。	消費者を守るための法律や組織の役割について理解している。 「問題商法」「自立した消費者」について知識を習得している。	企業と消費者の問題について理解し、なぜ消費者を守る方や組織が必要なのか説明できる。	よき消費者としてどう行動すべきか自覚を深めている。
		日本の司法制度	三権分立において司法権の果たしている役割を理解する。	裁判の公平さを保つための様々な制度改革について理解している。	司法に関する様々なしくみを裁判の公平性という観点から表現している。	憲法訴訟について自ら調べ違憲、合議の判決について思考しようとしている
	9	国民の司法参加	裁判員制度の目的と意義を学び国民審査や検察審査会など市民が司法参加できるしくみを理解する。	裁判員制度、国民審査検察審査会制度、被害者参加制度などについて個々のしくみと目的を理解している。	司法の場において、市民が主体的に関わり、裁判員としての役割を果たさなければならぬ理由について考慮し表現している。	18歳に達し裁判員に選ばれる可能性を考慮し、裁判について主体的に思考している。

	10	選挙と政治参加	民主政治の基礎を支える選挙のしくみについて理解するとともに制度の背景にある考え方も理解する。	民主主義とは国民に主権があるという基本的な考え方にに基づき実現するために様々な選挙制度や法律があることを理解している。	個々の選挙制度についての利点と難点を、民意をよりよく反映させるという観点から説明することができる。	選挙に関心を持ち、18歳になる時を想定して主権者としての自覚を深めている。
		公正な世論の形成	複数の政党が競い合う政党政治の意義を理解する。ポピュリズムの問題点、メディア、SNSと政治の関係も考える。	表現の自由、知る権利は政党政治とどう関係しているのか理解する。 世論の形成と政治への影響という基本的構造を理解している。	現在の日本の政党政治について具体的に説明できる。 政治的無関心を防ぐためにどのような意識が重要か、主権者として思考している。	政党に関心を持ち、たとえばコロナ政策について各党の政党の違いなどについて調べ、主権者として政治を見ようとする。
		国会と内閣	国民主権の原則のもとで国会が国政の要であることを理解し立法の手続き、議員内閣制、行政のしくみ、三権分立について理解を深める。	国会のしくみや立法手続き、行政組織、三権の均衡など基礎的な知識を習得している。 官僚が持つ問題点を理解し、官僚政治批判について考えている。	国会と内閣および行政組織の関係を理解したうえで官僚政治の問題点、政治主導に転換した現在の課題点について思考し表現している。	われわれの民意を表現するために、よりよい政治のしくみを考察しようとしている。
		地方政治	コロナ禍でかつてないほどの自治体の果たす役割が大きくなった。地方自治の直接民主政治のしくみについて理解する。	二代表制・直接請求権など、国政と異なる地方自治の直接民主主義のしくみを理解している。 地方分権を目指した様々な改革内容と抱える問題を理解している	地方自治で住民がもつ様々な権利、地方自治体が抱えている課題等について表現している。	地元地域の地方自治に関心を持ちどのような政策を推進しようとしているのか知ろうとする意欲がある。
	11	国家主権と領土	国家の要件、国家間の紛争解決手段 現在日本が抱えている領土問題について知識を習得する。	領域・国家・主権の三要素を理解している。 国際法・条約について歴史的経緯を含め理解している。 日本の領土問題を理解している。	国家とは何かという抽象的な見解や考え方にに基づき、具体的な領土問題、日本人拉致問題について思考している。	日本は、近隣諸国との摩擦をどのように解消すべきかという問題について思考している。
		安全保障と防衛	憲法9条の解釈と日本の安全保障政策の変遷を学ぶ。	憲法9条と自衛隊、日米安全保障条約、集団的自衛権の歴史的経緯を理解する。	憲法9条と日本の安全保障政策の複雑な関係について理解し、表現できる。	平和主義という理念と安全保障という現実のジレンマの中で思考し、両立させる道を模索しようとしている。

	12	21世紀の世界情勢	21世紀に入り大規模な紛争でなくテロや紛争、難民が国際政治の課題になっていることを学ぶ。	アメリカ同時多発テロを機にアラブ諸国で起こっている事象を理解している。 紛争による難民が世界の課題になっていることを理解している。	なぜテロや紛争がなくなるか、イスラム圏内戦、紛争の原因を考察し表現できる。 難民受入の先進国の紛糾を考察・表現できる。	難民問題に関心を持ち日本政府が取っている政策とその理由について調べ主体的に考察する意欲がある。
		国際社会と日本	戦後日本が国際社会で果たしてきた役割、国連成立のしくみ、ODA・NGO・SDGsについて学ぶ。	戦後の日本外交がたどってきた歴史・国際貢献の内容を理解している。 ODA・NGO・SDGsについて理解している。	日本が敗戦後取ってきた外交方針と国際貢献の歴史の延長戦上で思考し今後の国際社会の役割を考察できる。	先進国である日本が国際社会で果たすべき役割について自覚を持つことができる。
		職業選択	A I のしくみと機能・今後の職業選択について自ら働くことの意義や産業のしくみについて学ぶ。	ディープラーニング機能などA I の基本的なしくみを理解する。 ワーク・ライフ・バランスの意義を理解させる。	職業のあり方が産業構造の変化とともに変わることを念頭に働くことの意義と価値を表現できる。	働くことの意味について思考し、経済的主体としての自覚を深めている。
	2	財政の役割	財政が格差の是正・公共財の提供・景気の安定など市場経済への対処を目的に行われていることを学ぶ。	財政の3つの役割について理解している。 景気を安定させるための財政政策のしくみを理解している。 歳入・歳出の予算がわかる。	財政は政府が行う経済活動であるという観点から、コロナ禍の経済政策として行われた給付金について説明できる。	住んでいる地方自治体の歳入・歳出の内訳、予算配分などについて関心をもち調べている。
		金融の働き	金融が家計・企業・政府の間で行われ経済活動を支えている事を学習する	直接金融・間接金融の違いと銀行・証券会社など金融機関の役割を理解している。	金融のしくみを通じてお金が流通・経済主体の間に循環していることを表現している。	預金や株式などに関心を持ち、経済主体としての自覚を深めている。
		格差是正と他文化主義	文化や宗教の多様性を尊重する他文化主義の考え方を学び相互理解と寛容の態度を養う。	南北問題・南南問題が生じている構造を理解している。 格差是正のための先進国による取り組みがわかる。	文化的・宗教的価値の多様性が重視されるようになっている国際社会の方向性を表現している。	発展途上国の支援・他国の文化の尊重を主体的に受け止めて思考している
	3	インターネットは公共圏か 災害時の情報発信と受信	メディアを言語空間として捉え、ハーバーマス公共圏に思想とつなげて学ぶ。	ネット空間が公共的空間であることを阻害するものとして、フィルターバブル現象を理解している。	人間の多様性とネット空間の閉鎖性を理解し、ネットを公共的空間にするための方策について思考している。	フィルターバブルの外に出るための試みを実践し、地域の避難経路や災害への取り組みを自ら発信しようと努めている。

